

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年 1月 16日

協議会名: 串本町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
串本町	<p>①佐部・上田原線(1日6.5往復) 終点「上田原生活改善センター」まで運行。</p> <p>②大島線(1日1往復/6往復) 終点「檜野灯台口」まで運行。</p> <p>③和深線(1日1往復/6往復) 終点「雨島」まで運行。</p> <p>いずれの路線においても、「串本町役場」を起点として、「くしもと町立病院」、「串本駅」を経由し、終点に向かう。</p>	<p>コミュニティバスについては、警報発令時等を除いて、計画通りに運行した。</p> <p>令和6年4月に高齢者の利用料金を半額とした以降、利用者数は増加傾向にある。</p>	<p>A</p> <p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>①佐部・上田原線 目標70人/日 実績79.2人/日 前年度比9.8%増</p> <p>②大島線 目標6人/日 実績5.5人/日 前年度比10.5%減</p> <p>③和深線 目標13.4人/日 実績14.0人/日 前年度比4.8%増</p>	<p>令和3年に大規模なダイヤ改正を行ってから、5年近く経過しているため、利用者のニーズに即した運行ルート・ダイヤの改正を検討する必要がある。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年 1月 16日

協議会名:	串本町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>串本町は、紀伊半島の和歌山県南部に位置する本州最南端の町で、面積は135.80km²、東西延長が約26km、南北延長が約17kmと東西に細長い地形です。人口は14,959人(令和2年国勢調査)、高齢化率は47%です。人口は令和22年に1万人を下回り、高齢化率は令和17年に50%を超えると推計されています。</p> <p>町内の地域公共交通は鉄道、コミュニティバス、タクシーなどが運行しており、学生や車を運転できない高齢者等にとって欠かせない移動手段となっています。特に、町内を広域に渡って運行するコミュニティバスは通勤・通学・買い物・通院等の町民生活の確保・維持や、高齢化の進展・運転免許証返納者の増加に伴う公共交通の利用需要増加への対応が求められています。</p> <p>交通不便地域となっている各集落から、生活関連施設が集積する串本駅周辺やサンゴ台地区(高台)への移動手段を確保することを主たる目的として、地域住民の意見を反映しながら、利便性の高い持続可能な交通網整備を行っています。</p>